

地域おこし協力隊の活動とビジョン

地域おこし協力隊は、都市部から地方へ移り住み、地域の課題解決や魅力発信に取り組む制度です。隊員は自治体に委嘱され、地域・観光・スポーツ振興・中心市街地の活性化など、実情に応じた活動を行います。活動を通じて地域に新しい視点や人のつながりを生み出すとともに、任期終了後の定住や起業・就業につなげることをめざします。

現在、伊賀市では5人の地域おこし協力隊が活動しています。今回の特集では、各隊員に「活動内容」と「今後のビジョン」について聞きました。

☎ 交流政策課 ☎ 22-9680 FAX 22-9672



島野 美央 隊員



【任 期】 令和6年11月1日～

【活動拠点】 伊賀市内（スポーツ振興課）

【活動内容】

地域スポーツイベントへの参加や企画運営、地域事業者との連携企画などに取り組んできました。また、継続的な活動として、保育所や学童での巡回スクールや障がい者施設・福祉施設での運動教室、文化都市協会とのアウトリーチ事業など、幅広い世代が体を動かし交流できる場づくりを進めています。特に学童巡回スクールは継続開催につながり、地域との関係づくりや活動認知の向上を実感しています。

【今後のビジョン】

今後は学童巡回スクールの継続・拡大に加え、多世代交流イベントの定着化や地域団体・事業者との連携強化を進めていきます。また、SNSなども活用して活動や地域の魅力を発信し、伊賀市に関わる人を増やしていきたいと考えています。任期終了後も、スポーツを通じた交流や地域づくりに継続して関わり、「人を集める」だけでなく「人が集まり続ける仕組み」を地域に根付かせることをめざします。



吉田 恭子 隊員



【任 期】 令和5年4月1日～ ※現在、特例任期延長期間

【活動拠点】 博要地域

【活動内容】

人口減少と高齢化の進む博要地域において、3年間の任期期間中、空き家を活用した宿泊体験施設の開設や、都市部との交流イベントの企画、開催などの取り組みを行ってきました。

また、令和6年に立ち上げた地域唯一の商店「田舎のえき はくよう TERAS」は、生活必需品の購入先としてだけでなく、地域内外の交流拠点として多くの人に喜ばれています。

【今後のビジョン】

任期延長期間は「はくよう TERAS」の収益向上や集客に取り組みながら、次の2つのアプローチを行い、さらなる地域の活性化に向け活動を進めていきます。

- 伝統産業の新たな価値創造：伊賀組紐を活用した商品開発、物販、情報発信
- 里山環境を生かした体験型交流：美しい里山を体感する「滞在型プログラム」の企画、実施

【任 期】 令和5年11月1日～

【活動拠点】 伊賀上野 DMO

【活動内容】

伊賀市の観光地域づくりを推進する DMO の一員として活動しています。観光データの分析を通じて施策を立案するデータマーケティングをはじめ、市内事業者のネットワークを広げる交流会の企画・運営に尽力してきました。最近では、地域産品の魅力を発信する土産店舗の立ち上げに携わり、商品選定や運営体制づくりを進めています。

【今後のビジョン】

今後はデータ分析を生かした観光施策の改善に加え、関係人口の創出や文化継承にも注力します。地域内外が交わる場づくりや、伊賀の暮らしの魅力を届ける情報発信を通じ、ファンを増やしていきます。任期終了後も伊賀市に根ざし、観光振興とコミュニティ支援の両面から、持続可能な地域づくりに貢献し続けます。



谷 竜平 隊員



千本 英龍 隊員



【任 期】 令和8年5月1日～

【活動拠点】 ㈱まちづくり伊賀上野（中心市街地課）

【活動内容】

伊賀上野の中心市街地の活性化に向けた取り組みを行っています。主な活動は、伊賀市が持つ歴史・文化・地域資源を活用した交流人口や関係人口の創出です。民間企業の経営者として培った視点も生かして、地域課題の解決と持続可能なまちづくりに向けた活動を行っています。

【今後のビジョン】

今後は、現在の活動の拡大に取り組み、地域経済の活性化につながる仕組みづくりを進めます。特に、忍者文化をはじめとした伊賀市ならではの魅力を発信し、多様な人が地域と関わるきっかけを生み出したいと考えています。任期終了後も伊賀市に関わり続け、これまで培ってきたネットワークや経験を生かして、地域資源の活用と文化継承、そして持続可能な地域づくりに貢献しています。



常田 菜那 隊員

